

長崎県英語教育改善プラン

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

○英語教育の状況を踏まえた目標管理

①求められる英語力を有する教師の割合

【中学校】

28年度：29.3%（28年度目標値：40%） 29年度目標値：50%

【高等学校】

28年度：66.3%（28年度目標値：70%） 29年度目標値：80%

《平成29年度の取組》

【中学校】

平成28年度から、英語教育推進リーダーを活用した「英語指導力向上研修地区別研修会」を実施するに当たり、中学校英語科教員を対象とした選択研修として、外部試験（TOEIC IPテスト）の受験を計画・実施（受験料は県が負担）している。

平成29年度も同様に、地区別研修会受講者等を対象としてTOEIC IPテストの受験を計画し、積極的な受験を働きかける。

【高等学校】

平成28年度は、8月の「教員の英語力向上研修会Ⅰ」において、教員が自らの英語力を高めるための方法や外部検定試験の概要に関する研修を実施し、2月の「教員の英語力向上研修Ⅱ」で、普通科を中心とする約50名の英語科教員を対象にTOEIC IPテストの受験を実施した。

平成29年度も同様の研修会を計画し、専門学科・総合学科等の英語科教員を対象として同テストを実施する。

②求められる英語力を有する生徒の割合

【中学校】

28年度：32.8%（28年度目標値：40%） 29年度目標値：50%

【高等学校】

28年度：39.9%（28年度目標値：42%） 29年度目標値：50%

《平成29年度の取組》

【中学校】

本県では、毎年4月に中学校3年生を対象とした県独自の学力調査（英語）を実施しており、その分析結果を基に英語力向上に向けた取組の強化を図っている。その中で、英検3級程度の英語力とのかかわりを踏まえた分析を行うことが必要であると考えます。

本年度は、既に他教科を対象に実施している学力向上対策に係る委員会に英語を加え、調査結果を受けての課題改善に向けた情報発信を行うこととしている。その中で、授業改善の視点を明確にした授業づくりを行うなど、生徒の英語力向上につながるような英語指導の改善に向けた意識を高める取組を実施する。

【高等学校】

平成27年度までに「CAN-DOリスト」の作成を義務付けるとともに、教員が生徒の英語力の的確な把握に向けて意識向上を図るよう取組を強化した。また、平成28年度からは、県独自のスピーキングテスト「高校生英会話力テスト」を開発し、全ての全日制県立高校で実施することにより、生徒の聞く力・話す力をより客観的に把握できるようになった。

今後は、研修会等を通じて4技能をバランスよく高める授業づくりに向けた取組をさらに推進するとともに、「CAN-DOリスト」の有効活用に対する意識向上や「高校生英会話力テスト」の改善等に努め、生徒の英語力向上に取り組むこととしている。

③学習到達目標の整備状況

【中学校】（設定）

28年度：83.9%（28年度目標値：60%） 29年度目標値：100%

【高等学校】（設定）

28年度：98.7%（28年度目標値：100%） 29年度目標値：100%

《平成29年度の取組》

【中学校】

これまでも教育センターと連携を図り、各種研修会や学校訪問等において「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の設定の在り方やその活用方法等について説明を行ってきた。また、教育センターが作成したモデル指導案に「CAN-DOリスト」の活用を関連付けた授業計画を提示するなど、各学校での授業づくりに生かすよう働きかけてきた。

平成28年度は、各市町教育委員会に対して「CAN-DOリスト」の作成100%を目指す旨を啓発するとともに、英語教育推進リーダーを活用した「英語指導力向上研修地区別研修会」においても「CAN-DOリスト」の活用について講義形式により情報共有を行った。

その成果として、今年度は目標値を大きく上回る結果となったが、今後は、各学校が作成した指導と評価との関連性が高い「CAN-DOリスト」をどのように活用していくかについて教員の意識を高めていかなければならない。地区別研修会で継続して講義を行っていくだけでなく、今年度の英語教育推進協議会で各市町教委の指導主事と、指導と評価の一体化に向けて情報共有を行い、活用促進に努めていく。また、現在「CAN-DOリスト」の公表を行っている学校の情報を広く紹介することにより、多くの学校の公表を促す。

【高等学校】

平成27年度に全ての県立高校に「CAN-DOリスト」の作成・提出を求め、現在未作成は市立高校1校のみである。

平成28年5月に外部専門機関（ベネッセ・コーポレーション）から講師を招き、各校の英語科主任を対象とした研修会の中で活用イメージの共有化を図った。今後は、研修会の実施と学校訪問等を通じて、「CAN-DOリスト」の改善、ホームページ等での公表、リストを活用した評価の改善等に向けた取組を進めていく。

④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合（%）

【中学校】

28年度：71.6%（28年度目標値：75%） 29年度目標値：80%

【高等学校】

28年度：49.2%（28年度目標値：50%） 29年度目標値：60%

《平成29年度の取組》

【中学校】

平成27～29年度を「長崎県英語指導力向上の期間」とし、教員が目指す「3つの姿」を示している。その中の一つとして「生徒の言語活動が活発な授業を行う」ことを目指し、「英語指導力向上研修地区別研修会」での学びをもとに、コミュニケーション活動を重視した言語活動を積極的に取り入れた授業づくりに取り組むよう働きかけている。

研修受講後には、どのように授業改善を図ったか、そして生徒にどのような変容が見られたかなどについての報告を求め、活発な言語活動の充実に向けて意識の高揚を図っている。

今後は、各種研修会等において、授業の中で生徒自身が英語使用について振り返る場面を設定するなど、英語使用への意識を高めるような授業づくりを普及させたい。また、授業の中での英語による言語活動時間を増やしていくことも大切であるが、質を高めていくことも課題として捉え、「地区別研修会」での学びを活用した授業づくりをより一層働きかけていく必要がある。

【高等学校】

英語教育推進リーダーを講師とした「英語教員指導力向上研修」や、「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の一環として実施した「言語活動・パフォーマンステスト研修会」等を通して、生徒の言語活動を中心とした授業づくりを進めるためのスキルを高める機会を設けている。

また、英語教員海外研修を修了した教員による公開研究授業（平成25年より継続実施）を実施し、最新の理論に基づく言語活動（特にタスク）中心の授業の推進について意識を共有してきた。

現状として、生徒主体の授業づくりに向けた意識が高まっており、授業における言語活動時間の割合も増加している。今後は、「指導力向上研修」の研修内容を生かし、言語活動の中身についても充実を図るよう働きかける。また、研修協力校による公開授業を通して、「CAN-DOリスト」の活用も含め、効果的な指導の在り方や先進的な取組等を生かした授業を普及させることができるように努め、生徒の言語活動を中心とした授業づくりを推進する。

⑤パフォーマンステストの実施状況

【中学校】

○スピーキングテスト

28年度：2.5回（28年度目標値：2.9回） 29年度目標値：3.0回

○ライティングテスト

28年度：1.5回（28年度目標値：2.4回） 29年度目標値：2.5回

【高等学校】

○スピーキングテスト

・コミュニケーション英語Ⅰ

28年度 1.26回（28年度目標値 1.2回） 29年度目標値 1.5回

・コミュニケーション英語Ⅱ

28年度 1.07回（28年度目標値 0.7回） 29年度目標値 1.0回

・コミュニケーション英語Ⅲ

28年度 1.12回（28年度目標値 0.5回） 29年度目標値 1.0回

・英語表現Ⅰ

28年度 0.5回（28年度目標値 1.2回） 29年度目標値 1.5回

・英語表現Ⅱ

28年度 0.83回（28年度目標値 0.7回） 29年度目標値 1.0回

○ライティングテスト

・コミュニケーション英語Ⅰ

28年度 0.41回（28年度目標値 0.5回） 29年度目標値 1.0回

・コミュニケーション英語Ⅱ

28年度 0.22回（28年度目標値 0.5回） 29年度目標値 1.0回

・コミュニケーション英語Ⅲ

28年度 0.3回（28年度目標値 0.5回） 29年度目標値 1.0回

・英語表現Ⅰ

28年度 0.75回（28年度目標値 1.0回） 29年度目標値 1.5回

・英語表現Ⅱ

28年度 1.8回（28年度目標値 1.0回） 29年度目標値 1.5回

《平成29年度の取組》

【中学校】

これまで、「英語指導力向上研修地区別研修会」をはじめ、各種研修会等において「CAN-DOリスト」に関する講義や指導と評価の一体化に関する講義を行うなどして、「CAN-DOリスト」と関連付けたパフォーマンステストの在り方及び評価方法等についての共通理解を図ってきた。

中学校では、計画的にパフォーマンステストを実施しているところがほとんどであるが、明確な定義付けが曖昧であるため、「活動ありき」となってしまう、生徒の活動が評価に反映されていない実態も見受けられる。そのこともあって、実施回数が目標値に達していない現状がある。

今後、「話すこと」「書くこと」におけるパフォーマンステストの内容や実施方法、評価との関わり等について、研修会や研究授業等を通して理解を深める必要がある。「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」において県内大学との連携を強化し、専門的な助言を生かしたり、研修協力校や県内の研究指定校等の具体的な実践例等を積極的に発信したりするなど、適切な実施の在り方、評価の在り方等に向けて意識を高めるための取組を推進する。

【高等学校】

平成28年度から本県独自のスピーキングテスト「高校生英会話力テスト」を開発し、ALT等を活用して全日制県立高校の全ての生徒を対象にインタビューテストを行っている。昨年度と比較し、特にコミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲにおけるスピーキングテストの実施回数が、大幅に増加した。一方、ライティングテストについては、実施回数は増加しているものの目標値には達していない状況である。

11月には「言語活動・パフォーマンステスト研修会」を実施し、パフォーマンステストの意義や方法論について研修及びワークショップを行った。

これらの成果を生かし、次年度は「高校生英会話力テスト」の質をさらに高めるとともに、ライティングテストの実施回数を高めるための取組を強化したい。

⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）

【中学校】

28年度：66.6％（28年度目標値：75％） 29年度目標値：100％

【高等学校】

28年度：52.5％（28年度目標値：60％） 29年度目標値：80％

《平成29年度の取組》

【中学校】

④で述べた平成27～29年度の教員が目指す「3つの姿」の一つとして、「授業の半分以上を英語で行う」がある。「教室英語」を日常的に使用したり、英語でのやり取りや生徒の活動を中心とした授業づくりに努めたりすることを、研修会や授業研究会等で継続して働きかけるとともに、そのねらいや望まれる成果等について各市町教育委員会へも説明を行った。

その成果として、「発話をおおむねまたは半分以上を英語で行っている」英語科担当教員の割合は昨年度より向上した。

英語教育推進リーダーを活用した「英語指導力向上研修地区別研修会」は、ほぼ英語で進められており、英語で行うことを基本とした授業づくりへの意識も高まっている。参加者の事後アンケートからも、英語で授業を進めていこうという意識の高まりが十分にうかがえた。

今後も継続して、英語で行うことを基本とした授業への意識を高め、研修協力校をはじめとした授業公開等で実践事例を示すなどして、英語担当教員の英語使用を普及させていく。

【高等学校】

今年度は、昨年度の41.1%から52.2%に大幅に上昇し、英語で進める授業が着実に広がりつつある。一方、教師による説明が中心の授業も散見され、目標には達していない。「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」に係る各研修会において英語で進める授業のモデルを示したり、県英語教育研究会が発行するニュースレターを活用して情報発信を行ったりするなどして、教師が英語を使用するに当たっての意義や効果的な指導方法等について、今後も周知徹底を図っていく。

平成28年度末には英語教育推進リーダーによる「英語科教員指導力向上研修」の修了者が全教員の7割程度となった。研修を生かし、英語による言語活動を中心とした授業がさらに活発に行われることが期待される。

⑧英語担当教員に対する研修実施回数

【小学校】

28年度：23回 591名（28年度目標値：20回 500名）

29年度目標値：15回 300名

【中学校】

28年度：36回、708名（28年度目標値：30回、500名）

29年度目標値：20回、180名

【高等学校】

28年度：23回、484名（28年度目標値：20回、300名）

29年度目標値：20回、250名

《平成29年度の取組》

【小学校】【中学校】

前述のとおり、本県では平成27～29年度を「長崎県英語指導力向上の期間」とし、この期間に英語教育推進リーダーを活用した「地区別研修会」をすべての地区で計画的に実施することとしている。現在のところ研修は順調に進められており、29年度までに、すべての小学校中核教員及び中学校英語科教員が受講を終える予定である。

研修内容を授業実践につなげるためにも、授業公開や研修会等において、より良い授業づくりに向けた実践事例を広く普及させることが必要である。本年度は、県教育センターにおいても英語教育に係る研修講座の更なる拡大・充実を図る。小学校では英語教育推進リーダーを活用した研修会を、中学校においては「CAN-DOリスト」を活用した研修会（教育センターの講座）を計画している。また、既存の「英語教育推進協議会」を拡大し、県内全市町教育委員会の担当者が研修会の開催に関与するよう体制を整えるなど、県全体として英語教育に係る研修の充実を図るための取組を強化していく計画である。

【高等学校】

英語教育推進リーダーを活用した「英語科教員指導力向上研修」及び「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」における各研修会を中心に、幅広いテーマに関して研修の機会を提供し、教員の指導力向上に努めてきた。

①高等学校英語科教員指導力向上研修：7～8月、1～2月に各3日間実施、65名受講

②高等学校英語科主任研修会（CAN-DOリスト活用）：5月実施、33名受講

③リーディング指導研修会：7月実施、33名受講

④教員の英語力向上研修会Ⅰ：8月実施、40名参加

⑤言語活動・パフォーマンステスト研修会：11月実施、38名参加

⑥教員の英語力向上研修会Ⅱ：2月実施、50名参加予定

⑦その他（初任者研修、教科指導ミドルリーダー養成研修等）：25名参加

各研修の受講者は各所属校で研修内容の報告等を行うこととしているが、学校によって取組の差もある。今後は研修内容を充実させるとともに、その成果をいかに効果的に普及させるかについて検討していく必要がある。

(3) 研修の体系と内容の具体

○小・中学校

平成27年度から29年度までの3年間を「長崎県英語指導力向上の期間」とし、小・中学校教員の英語指導力向上に係る研修会を計画的に実施している。小・中学校では、3年間の期間において、それぞれ次のことを目指す。

小学校では、学年を問わず、すべての先生が

- ・外国語活動の授業を経験する。
- ・簡単な英語で子どもに指示ができる。
- ・ALTと協力して指導ができる。

中学校では、すべての英語科の先生が

- ・授業の半分以上を英語で行う。
- ・生徒の言語活動が活発な授業を行う。
- ・CAN-DOリストを活用した指導ができる。

上記の「3つの姿」の浸透を図るとともに、大学等の外部専門機関の協力を得ながら、小学校における英語教育の早期化・教科化、中学校における英語教育内容の高度化に対応できる英語指導力を持った教員の育成を目指すこととしている。

また、研修協力校3校（小学校2校・中学校1校）を指定し、授業公開等を通して、大学等と連携した取組や実践内容についての普及を図る。

【英語教育推進協議会の設置】

平成28年度に、県教育委員会（義務教育課・教育センター）、研修協力校及び関係市町教育委員会（研修協力校を持つ市町）、関係大学が連携し、英語教育推進協議会を設置した。本協議会では、英語教育の在り方等について協議し、連携を深めるとともに、当該地区及び周辺地区の英語指導力向上に資する取組の推進強化に努め、事業の在り方や目指す教員の姿を実現するための取組、県内各市町教育委員会と県内大学との積極的な連携に向けた支援体制作り等を推進してきた。

平成29年度は、前述のとおり推進協議会の拡充を図り、県内全市町教育委員会及び長崎大学附属学校を加え、県内の他大学や関係機関等との円滑な連携を目指し、5月に第1回協議会を実施した。県内の英語教育の連携・協力体制を構築し、同一方針のもと、その改善に向けた取組をそれぞれの立場で確実に推進していくことにより、本県の英語教育の更なる充実につなげることができると考えている。

1月～2月にかけて、第2回協議会を実施する計画である。

【研修の内容】

①英語指導力向上研修地区別研修会

研修対象者：対象となる地区の小学校中核教員及び全ての中学校英語科担当教員

研修目的・内容等：

小学校教員及び中学校英語科教員の英語力・授業力の向上を図り、本県の小・中学校における英語教育の充実に資することを目的とする。中央研修を受講した英語教育推進リーダーを講師として、中央研修で学んだ指導技術の伝達等を中心とする研修を行う。

（中学校英語科担当教員を対象として、外部検定試験を受験する機会を提供する。）

②研修協力校における公開授業を通しての研修会

研修協力校による授業を通して、「CAN-DOリスト」を生かした指導や児童生徒の活動を中心とした授業づくりなど、授業・評価の改善に資することを目的とする。県内大学等と連携し、研究協議において専門的・具体的な指導方法等について学ぶなど、英語指導力を高めるための研修内容を計画する。研修会への参加は県内全域を対象とする。

平成28年度に引き続き、29年度も研修協力校を小学校2校、中学校1校とする。公開授業を計画的に実施することにより、県内各地で参会者が自校の取組に生かすことができるようにする。

○高等学校

平成28年度は、研修協力校1校を指定し、普通科を中心とした33校の英語科教員を対象に研修協力校の取組を生かした研修会を開催するとともに、外部機関を活用した英語指導力向上に係る研修会を実施した。

平成29年度は、専門学科・総合学科及び定時制高校32校の英語科教員を対象に、同様の取組を推進し、英語科教員の英語指導力向上に資する取組を推進する。

【研修の内容】

①英語科主任研修会

研修対象者：対象となる高校の英語科主任等32名

研修目的・内容等：

学校全体で英語指導力の向上を図るため、各校の英語科主任を対象にした研修会を実施する。指導主事が英語教育改善プラン等について講義を行うとともに、外部専門機関から講師を招き、「CAN-DOリスト」の効果的な活用について講演及びワークショップを行う。また、各学校が作成したリストをもとに活用事例等について情報共有を行う。

②リーディング指導研修会

研修対象者：対象となる高校の英語科担当教員約32名

研修目的・内容等：

教科書以外の教材を効果的に活用するスキルを身に付けさせるため、洋書等オーセンティックな教材を活用し多読を取り入れたリーディング指導について、外部講師を招き、講義及びワークショップ（模擬授業等）を実施する。また、研修協力校において多読指導を中心とした公開授業を実施し、研究協議等を通じて指導力の向上を図る。

③言語活動・パフォーマンステスト研修会

研修対象者：対象となる高校の英語科担当教員約32名

研修目的・内容等：

大学等から講師を招き、授業における言語活動の効果的な活用方法や、評価におけるパフォーマンステストの内容、実施方法、留意点等についての講演やワークショップを実施する。

④教員の英語力向上のための研修会

研修対象者：対象となる高校に勤務し外部検定試験の受験を予定している教員40名程度

研修目的：内容等：

英語で行う授業を推進するため、教員の英語力を高めることを目的として実施する。英語力向上への取組について講義や演習を行う。また、参加者は後日 TOEIC IP テストを受験する。

⑤研修協力校における公開授業

研修協力校において、上記①～④に示した各研修会と抱き合わせる形で公開授業を実施する。また、研究協議等において生徒の英語運用力を高める効果的な指導について情報交換を行う。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月	【小中高】第1回長崎県英語教育推進協議会	長崎大学、長崎県立大学、 活水女子大学、長崎純心大学
	【高校】英語科主任研修会	ベネッセ・コーポレーション等
6月	【小中】英語教育推進リーダー連絡協議会	
	【小中高】研修協力校を活用した授業研究会 (2月まで、各校3回程度を予定)	県内大学等
7月	【小中】英語指導力向上研修地区別研修会 (8月まで地区別に3日間)	県外大学
	【高校】リーディング指導研修会	
	【高校】英語教員指導力向上研修① (8月まで)	
8月	【高校】教員の英語力向上研修会Ⅰ	外部試験実施団体等
9月		
10月		
11月	【高校】言語活動・パフォーマンステスト研修会	県内大学
12月	【小中】地区別研修会の内容を生かした研修会の実施状況に係るアンケート集約	
	【高校】英語教員指導力向上研修② (2月まで)	
1月		
2月	【小中高】第2回長崎県英語教育推進協議会	長崎大学、長崎県立大学、 活水女子大学、長崎純心大学
	【高校】教員の英語力向上研修会Ⅱ(外部検定試験受験)	
	【小中高】英語教育推進リーダーを活用した研修会のまとめ	
3月		
【その他の取組】 ○「英語教育推進リーダー連絡協議会」の実施により、英語教育推進リーダー中央研修に参加した教員が、研修内容や地区別研修会の進め方等について協議する機会を設定する。(小・中)		

